

戦争と平和の資料館

ピースあいちニュース

第1号

2007年5月4日発行

〒465-0091

愛知県名古屋市

名東区よもぎ台2丁目820

電話・FAX 052-602-4222



発行：戦争と平和の資料館ピースあいち HP <http://www.memorial-aichi.jp/>

戦争と平和の資料館「ピースあいち」オープン！ —5月4日（金）、名東区よもぎ台に

14年来、建設運動を続けてきた「戦争と平和の資料館ピースあいち」が、いよいよ開館の運びとなった。建設の場は名東区よもぎ台2-820の地で、昨年の7月19日に起工式を挙げた。以来、建築工事は順調に進み、仮称だった館名も「戦争と平和の資料館ピースあいち」と決まり、この5月4日（金）に開館する。

■ はじまりは、 平和のための戦争メモリアルセンター 建設要請運動

この国での最後の戦争が終わって62年。戦時に使われたものは散逸し、戦争を知っている世代は減少、戦争の記憶はどんどん薄れている。戦争体験の風化である。二度と戦争を起こしてはならぬ。戦争の記憶をとどめ、この平和を守ろう、という願いから、この建設要請運動を始めたのが、1993年8月のことであった。

「戦争メモリアルセンターの建設を呼びかける会」の結成にあたっての、呼びかけ人は当初36人だったが、間もなく104人を数えた。早速、愛知県と名古屋市に「戦争メモリアルセンター」を建設するよう要望した。県議会・市議会に請願をしたところ、いずれも採択された。これを受けて県・市では、三度に亘る検討委員会を設け、建設に向けての基本構想までは策定されたが、それ以上の進展はなかった。

この間、呼びかける会は様々な運動を展開してきた。市民シンポジウムの開催、資料館建設への「提言」の公募、運動を広げるための季刊誌『承継』の刊行、「絵手紙展」の開催などである。2003年に至って、特定非営利活動法人（NPO）に改組した。認可されたNPO法人は2005年、「愛知万博」開催の最中に戦争資料館の「モデル展」を東区の「市民ギャラリー矢田」で開催した。幸いにして来館者は2,500人を数えた。

この展覧会の新聞記事を読まれた方から思わぬ



ピースあいち

申し出を頂いた。資料館の建設が思うように進まないのなら、建設用地と建設資金を提供するという話である。86歳になられる加藤たづさんである。私たちは、この寄付の話を県と市に伝え、早急に戦争資料館を建設するよう要望した。県・市はこの要望を受け入れなかった。このため、NPOでは議論を重ねた上で私たちの手で建設することを決めた。

それから一年半をかけて、展示の構想を練り、資料を収集、解説パネルを作り、準備を整えていった。この間、開設のための資金も公募し、街頭での募金活動も行った。県民・市民から寄せられた浄財はこの3月、目標額に達した。二度と戦争は起こすまい、この平和を守ろうという人々の思いの反映であろう。

私たちは、「ピースあいち」を志を同じくする人々との交流の場とし、多くの人々によって支えられる資料館に育てたいと願っている。

「ピースあいち」の開館にあたって

ごあいさつ

館長 野間 美喜子

風薫る5月、多くの人々が待ち望んでいた「戦争と平和の資料館ピースあいち」が開館します。

戦争という20世紀の負の遺産を、歴史の教訓として次世代に伝え、平和のために役立てたいとの思いから、この愛知に戦争資料館を建設する運動を始めてから、はや15年ちかい歳月が流れました。

県や市への建設要請運動が行き詰まり、展望を見失っていた2年前、奇しくも、資料館の用地と建築資金をご寄付くださる方に巡りあい、私たちNPO「平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会」は、自分たちの手で、民営の戦争資料館を建設する決意をしました。それ以後、建物の建設を始め、さまざまな準備を重ね、2007年5月4日、オープン運びとなりました。資料館開館までには、志を共有する多くの方々の物心にわたる多大なご支援がありました。心からのお礼を申し上げます。

約300㎡の敷地に延べ500㎡ほどの、資料館としては小さな施設ですが、戦争が残した教訓を伝え、



平和への思いを発信し、市民が交流する場として、そして、伝えられたことや学んだことを、さらに次の世代につないでいく役割を果たす施設でありたいと考えています。また、「ピースあいち」は、ここを訪れた人が平和のために一歩を踏み出す契機となるような場所でありたいと思います。

「ピースあいち」は、平和を願う多くの人々に支えられてこそ存立する施設です。これからも、皆さまのご参加、ご協力、ご支援によって、生まれたばかりの「ピースあいち」を大きく育てていただきたいと願っています。

世の中のお役に立ちたくて…

加藤 たづ

このたびは立派な資料館を造っていただき嬉しい限りです。名古屋での空襲が激しかった頃の私は、三菱の大江工場に勤めていました。B29による爆撃や焼夷弾が落ちるのを経験し、恐ろしい思いをしました。戦時では若い人がどんどん戦争に取られるので、女でも手に職をつけないといけないと思い、勤めながら助産婦の資格を取りました。

戦争が終わっての翌年、私は助手として務めていた産婦人科の患者さんの紹介で主人と結婚しました。港区の化学工場に勤める人でした。ところが、所帯をもって十カ月後に主人が亡くなりました。工場での爆発事故で、二十二人が犠牲となりました。私は看護婦の資格もあったので、工場の診療所に勤めることが出来ました。戦後に洋裁の教師、調理師、衛生管理士などの資格をとり、診療所に勤め

ながら昼も夜も働いてきました。

私は八十六歳になりますが、この歳になって思うことは、お金を持ってあの世にはいけないということです。そこで、何かいい使い道はないか、世の中のためになるような、いいことはないかと思案しました。そこで、身体障害者の方々が作業する授産所を考えたこともあります。

たまたま、戦時の資料を展示する資料館の話を読んだら、「あっ、これだ」と思い、身内に相談し、野間美喜子先生のところへ電話をした次第です。

私が提供した資産は先祖から受け継いだものではありません。私が昼夜仕事をして残したものです。この資料館が多くの方々に見ていただき、平和な世の中を作っていただきたいと願うばかりです。

開館に寄せて

「ピースあいち」は多くの方々のご協力を得てオープンすることができました。展示物の作成には、社会や歴史の教育に携わっておられる先生方にかかわっていただくことで、充実したものとなりました。先生方ありがとうございます。

その先生方から「ピースあいち」開館にあたってのメッセージをいただきました。

戦争の証言

金子 力
(春日井市立南城中学校教諭)



戦後62年、戦争を語り継ぐ人は年々減り、証言を聞き取る作業に「待った」はなくなった。その一方戦後60年を過ぎてなお、初めて明かされる事実もある。最近の米軍資料の発掘と研究は地方都市空襲にとどまらず、戦争の全貌の解明に向けて動き出している。

一地方の空襲の調査がアメリカの戦略爆撃の姿を浮かび上がらせることもある。市民や研究者による調査研究が反映される展示やワークショップ、手作りの平和資料館が発信する平和のメッセージは今重要な意味を持っている。

平和の波を

西形 久司
(東海高校教師)



平和は無限定がいい。わが国の平和というように限定してしまうと、それを守るために他国の平和を排除せよ、などという逆立ちした論理が生まれる。

アジア・太平洋戦争の「宣戦の詔書」に「平和」は6回登場する。曰く「帝国の平和」「東洋の平和」などなど。戦争を始めるときでさえ、限定付きの「平和」は侵略正当化の口実となるのである。

分け隔てのない平和の波が地球を包むとき、その輪の真ん中に私たちの「ピースあいち」がある。

歴史を学ぶ

丸山 豊
(元名大付属中高校教員、
現名大、名市大非常勤講師)



昨年3月定年退官で中高の教育現場を去る時、私は生徒にこう語りました。「今後は自由な時間を生かして平和について考え、そのために少しでも行動していきたい」と。そして今、野間さんはじめ皆さんの熱い思いに感激し、歴史を学ぶとは何かを改めて実感している毎日です。大きな岐路に立つ日本の現在・未来を共に学びあい、平和について行動するという新しい歴史教育運動に参加出来ることに幸せを感じています。

平和を擁護する博物館

南 守夫
(愛知教育大学教授)

憲法を「改正」し「国益」のために兵士を再び海外の戦場に送り戦わせるための準備が進められている今、日本人約3百万人、アジアで2千万人が殺されていった15年戦争の歴史を改めて振り返り、被害だけではなく加害をも含めた「戦争の惨禍」（憲法前文）の全体像を見つめ直すことは、日本社会の今後のためにもアジアの人々との真の友好のためにも極めて大切なことでしょう。「ピース大阪」をはじめ90年代前半に各地で平和博物館が創られて以後、停滞と反動が強まる中で、侵略戦争を否定し平和を擁護する基本姿勢を明確にした博物館がこの地に実現することは、日本の平和博物館の歴史にとっても重要な意義を持つものだと思います。

しょうしゃ 瀟洒で明るくて—建物について

2月末に建築工事が完了し、その姿を現して約2カ月、建物を見た人からいろんな感想が出されています。「明るくて入りやすそう」、「すっきりしていてきれい」。また「戦争という重いテーマの建物らしくないのがよい」という声もありました。私たちNPOの建物への要望を若手の建築家が汲み取っていただき、新しい形に創りあげてくれたものです。

正面は白を基調とした明るいイメージです。大きな漆喰壁に丹羽和子さんの絵画が描かれています。金属板による側面の壁は、時刻や天候によってその表情に変化があります。

建物の前は小さな広場です。植え込みの一隅には「平和地蔵」が鎮座しています。この広場もイベントやワークショップなどに活用できます。

玄関を入ると、正面に2階展示室への階段、右

は交流スペースと第4展示〈現代の戦争と平和〉のコーナーです。奥に事務スペースがあります。

展示の順路は2階からです。光あふれる、白を基調にした明るい階段を上がると、展示室の入口です。車いすの方などは1階からエレベーターを利用できます。階段を上り、さらに右へ回ると、3階へ続きます。

2階はフロアー全体が展示室です。

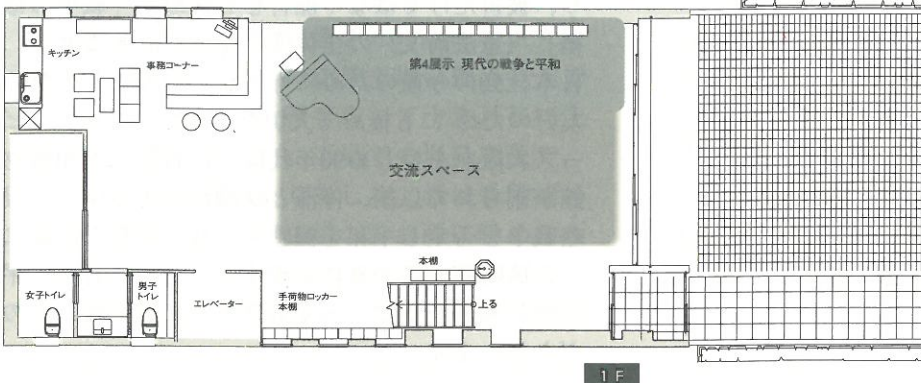
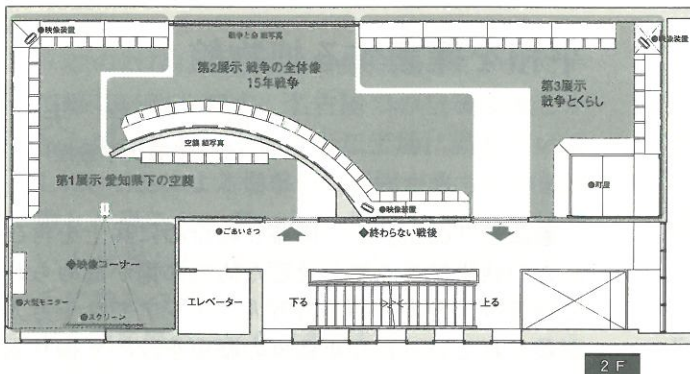
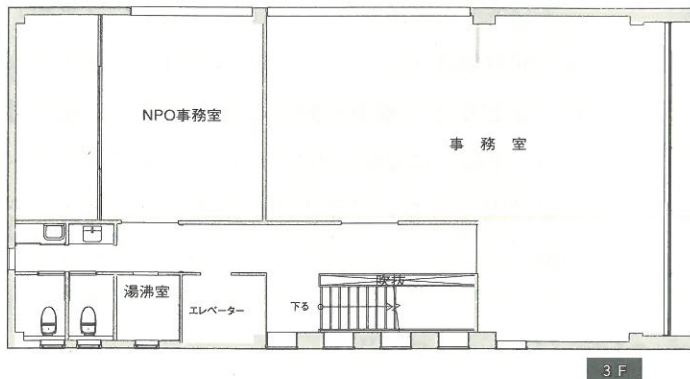
2階の展示室は3つのコーナーがあります（詳細は次頁参照）。またコーナーごとに映像装置があり、DVDを観る事ができます。

展示室を出ると廊下壁面に〈まだ終わらない戦争〉のコーナーがあります。

階段を下りて、第4展示〈現代の戦争と平和〉に進みます。1階には書籍のコーナーもあり、手にとってご覧頂けます。

3階は事務室となっていますが、当分の間は会議や特別展やイベントなどに使います。

ピースあいちは、多くの人々に使われてこれから育っていく、そんなスペースでありたいと願っています。



展示室



展示室



2階展示室から3階への階段



奥から正面方向を見る。右手がライブラリー

4つのテーマによる常設展示

「ピースあいち」は3階建てで、1階は「現代の戦争と平和」というテーマの常設展示とライブラリーがある。また、このフロアは志を同じくする人々との交流の場でもある。この他、ミニ・コンサートや朗読などのためのステージを設けることもできる。2階は全室常設の展示室で、「愛知県下の空襲」「戦時下の暮らし」「戦争の全体像・15年戦争」という3つのテーマで構成。3階は会議室の仕様となっているが、企画展や貸ギャラリーとしても使えるようになっている。各テーマの展示の概要は次の通りである。



愛知県下の空襲

米軍のB29爆撃機による愛知県下への攻撃は、延べ67回（うち30機以上の大規模空襲は21回）を数えます。死者は1万1千余人、負傷者は1万5千人超。執拗な空襲を受けたのは、この地が軍需産業の一大拠点だったからです。

文献資料とともに、防空頭巾など実物資料や米国側の資料で、この空襲の性格を解説しています。

- ①名古屋をはじめ、豊橋、岡崎、一宮、豊川など県下の主要都市が受けた空襲被害を残された記録写真で紹介
- ②甚大な被害をもたらした愛知時計電機・愛知航空機の工場、豊川海軍工廠の惨状、模擬原爆を投下された陸軍鳥居松製作所の被害など
- ③あいちの空襲の全体像を伝えるデータ
- ④非人間的な「空爆」の思想についての解説

戦争の全体像・15年戦争

昭和6年の満州事変から昭和20年の敗戦までの戦争は「15年戦争」と呼ばれています。展示では、15年戦争を理解できるように、帝国憲法が制定された明治中期から日清・日露の戦役を経て、日本が軍国化していく経過を示しています。

満州事変から日中全面戦争、東南アジアへの権益の拡大を経て、太平洋戦争、沖縄戦、広島・長崎への原爆投下、ボツダム宣言の受諾、敗戦という経過を時系列で明らかにしています。

このほかに、15年戦争の地図と年表、国家総動員体制、教育の国家統制と皇民教育、南京大虐殺と731部隊、強制連行と慰安婦、戦争責任と裁判など、写真と解説パネルで戦争の全体像を明らかにします。

戦時下の暮らし

15年にわたる戦争の時代。戦争を体験した人には何が忘れられないのか、何が一番つらいことだったのかをふりかえってもらい、戦争を知らない世代には、戦時下では物心両面で過酷な生活を強いられたことを、次の6つのテーマに整理して、写真や実物資料で示し、平和の大切さを訴えます。

- ①灯火管制のもと、物資の不足や配給制度、徴兵検査、召集、軍事郵便、慰問袋などによる戦時の生活
- ②子どもたちへの軍国教育
- ③学童の縁故疎開・集団疎開
- ④学徒の軍需工場への動員
- ⑤学問・思想への弾圧、文化・報道への思想統制
- ⑥戦争に抵抗した人々

また、展示室の一角には、当時の町屋の一角を再現し、黒布で覆った電灯、戦意高揚のポスターなどで戦時の雰囲気伝えます。

現代の戦争と平和

20世紀は戦争の世紀でした。21世紀は平和の世紀であれと誰もが願いましたが、今もなお世界での戦火は絶えません。現代の戦争では、戦う兵士だけでなく、武器を持たない一般市民が傷つき倒れていきます。

パネル展示では、①第1次世界大戦終了後、平和の希いから国際連盟が設立され、その後の平和主義の世界的な歩みを伝え、②第2次世界大戦終了後も、民族独立運動や宗教間の対立があるとはいえ、今なお世界各地での紛争（戦争）が絶えない。③その世界は核兵器を中心に、軍備、軍事費は増加の一途であり、④最後に、「暴力によらない平和の希い」「平和の実現」のためのさまざまな国際的な取り組み状況などを紹介します。

活動報告

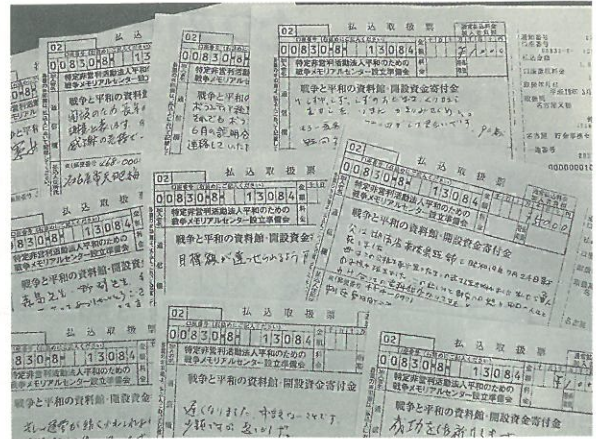
「開設資金」の募金、
ありがとうございました。

昨年来、皆さまにご協力いただきました「戦争資料館開設資金」の募金は、多くの方の熱いご支援により、3月末現在、目標額の3000万円を達成することができました。

そして、この開設資金のうちから、①展示関係費（展示台、パネル制作費など）約1000万円、②資料関係費（実物・映像資料、図書など）約300万円、③什器備品費（パソコン、複写機、備品など）約200万円、④開設準備関係費（印刷費、通信費、アルバイト人件費など）約500万円、合計約2000万円を支出しました。

このように、皆さまからご寄付いただいた3000万円は、準備のためのさまざまな費用を賄った上、資料館のこれからの運営維持のために、約1000万円を運営準備金として残すことができました。

これは、ひとえに会員をはじめ、戦争資料館を



募金とともに、たくさんのメッセージが寄せられています。

応援して下さる多くの皆さまのお蔭であり、心よりありがたく、深くお礼申し上げます。民設・民営の資料館の運営は、今後も財政的に厳しいことが予想されますが、当面、上記の運営準備金をもとに活動するなかで、飛躍的な会員の増員につとめ、長期的な財政基盤の整備をはかるよう、努めてまいりたいと存じます。どうか、これからも、変らぬご支援をお願い申し上げます。ここに、ご報告とお礼を申し上げます。

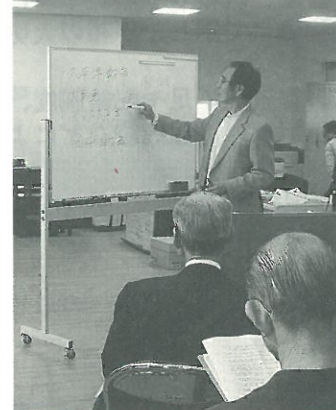
運営ボランティアさんに
期待しています。

「ピースあいち」の運営は、事務局だけでできるものではありません。また、なるべく多くの方にかかわっていただくことも大切です。地域の方たちの「関心と参加」が、「ピースあいち」を育んでいくと思うからです。

そこで、展示室の管理や受付などについてのボランティアさんを募集しました。たくさんの問い合わせをいただき、2月20日のボランティア説明会には50名以上の方の参加を得ました。

3月14日にあいちNPOプラザで第1回研修会、4月12日には竣工したばかりの「ピースあいち」で第2回研修会を開催。ボランティアさんの数は63人になりました。みなさん、応募された動機はさまざまですが、次代の平和のために先の戦争の記憶を残したいという思いは同じだと感じました。また、いろいろな方面で経験豊かな方たちばかり。どんな分野で力を発揮していただけるか、とても楽しみです。

「ピースあいち」は、手づくりの資料館。ボランティアさんと一緒に、真摯に学び、そして楽しく、活動に参加していけたらと思います。



「ピースあいち」で開催された第2回研修会

丸山豊先生（ピースあいち展示検討会顧問）によるレクチャー

今回のボランティア募集は終了しましたが、開館後の6月頃に次回の募集を行う予定です。

寄贈いただいた資料が230余点に。

2月末までに寄贈していただいた物、文書は230点余りにもなりました。このうち文書類の中には、国民学校と改称された途端に小学校の校歌の歌詞が皇国民に変わってしまったという2種類の通知表、細かい字の手書きの教科書の写し、両親への感謝と慈愛に満ちた妻や子どもたちへの言葉であふれた毛筆の達筆な遺書など、いずれもその時代を反映しているものです。戦友会として克明な記録を残し、遺族の方々に伝える努力をされた方々からも貴重な資料を提供していただきました。

これらの文書やセピア色になった戦争中の文集、体験や思いを綴った戦後の冊子を、どのように展示していくのが今後の課題となっています。展示のスペースには限りがありますので、展示替えをすることによりご寄贈いただいた方々のお心を伝えたいと思います。

事務局の移転とオープニングのために中断しております寄贈の受付の再開は、6月からとなります。これまでの皆様に感謝し、今後のご協力をお願いいたします。



満州で6年間使用したトランク

焼けた箱の中で無事だった小倉百人一首



「ピースあいち」の平和地蔵

長年、中区千早の交差点で戦争犠牲者を悼み、地域を見守り続けてきた『平和地蔵』を「ピースあいち」へお迎えすることになりました。



旧千早町は1945年3月の名古屋空襲で激しい爆撃を受け、町民はじめ、鉄道線路づたいに逃げてきた多くの人々が亡くなりました。当時の町内会長故山田順三さんの呼びかけにより、空襲から3年後の1948年3月この平和地蔵が建立されました。

道路の建設などで何度か移転されながらも、町の人達が手厚く供養を続けてきましたが、1994年には市営八事霊園に移されました。

「戦争と平和の資料館ピースあいち」の建設を熱心に応援して下さった方のご紹介により、故山田順三さんのご家族と、お地蔵様を預かって下さっていた建昌寺の住職さんにお会いすることができ、ぜひ「ピースあいち」の平和のシンボルとしてお迎えしたいとの私たちの願いに、お許しをいただきました。

3階展示室の活用、
企画の提案についてお願い

「ピースあいち」の3階には、35㎡（約10坪）と55㎡（約17坪）に仕切ることのできる広々とした多目的室があります。

小さい空間は、子どもたちや学生の方たちに大いに利用していただきたいと考え、壁面に東山動物園の戦争にまつわるエピソード『ぞうれっしゃがやってきた』をパネル展示しています。絵本や紙芝居もあり、いつでも気軽に立ち寄っていただける場にしたいと考えています。

大きな空間は、20人程度の会議ができる部屋でもありますが、さまざまな企画展示を2週間から1カ月ぐらいで実施していきたいと思います。ぜひ利用者の皆様からご提案いただいて、愛知にかかわる戦争資料の特別展示や、民営ならではの小回りのきく催し物をと、期待をふくらませています。

また、展覧会やミニ・コンサート、会議ほか、ちょっとした集まりなど有料の貸し出しも行います。お問合せください。

この資料館の建設運動に携ったメンバー、戦時遺品を寄贈された方々、開設資金を寄せて下さった人々。そうした方々の平和への思いを、この詩に託し「ピースあいち」に掲げます。

希望を編みあわせる

岩川直樹

人類の歴史は
暴力と戦争の歴史だと
言う人がいる

でも

人類の歴史は

平和を願ってきた人たち

平和をつくろうとしてきた人
たちの

歴史でもある

これまで

平和を願って死んでいった

数えきれない人たちの希望に

いま

平和をつくるために

なにかをしようとしている

世界中の人たちの希望に

わたしたちの希望を

編みあわせていこう

岩川直樹文／森雅之絵

「平和と戦争の絵本① 人間はなぜ
戦うの？」 大月書店刊

「ピースあいち」オープニングイベント 5月4日～6日

講演と音楽の夕べ

「今こそ、平和のメッセージを！」



- 1 演奏 愛知県立千種高校吹奏楽部
 - 2 記念講演 「いのちと平和の尊さを、ここから」
講師 早乙女 勝元
(東京大空襲・戦災資料センター館長)
 - 3 司会・朗読 天野 鎮雄
 - 4 独唱・合唱 松本三紀夫とコール・ロマンツェ
- とき◎2007年5月4日(金・祝) 17時～19時
ところ◎名東文化小劇場ホール(上社ターミナルビル3階)
料 金◎1500円
問い合わせ◎☎052-602-4222

「ようこそ、ピースあいちへ」

5月5日(土)、5月6日(日)には、「ピースあいち」1階ホールで、オープニングの祝賀行事を行います。資料館の閲覧料のみで、行事への参加は無料です。ぜひ多数、おでかけください。

5月4日(金)◎一般公開 午後1時より

5月5日(土)◎開館 午前11時

11時30分～12時

●「ぞうれっしゃがやってきた」

小出隆司先生(絵本の著者)によるおはなしと紙芝居

14時～14時40分

●田中幸子さん(俳優)による朗読・読み聞かせの会

5月6日(日)◎開館 午前11時

11時30分～12時

●子ども向け企画(ゲーム・紙芝居)

14時～14時40分

●「渡部千枝と弟子たち」

ミニ・コンサート

5月4日(金)～5月31日(木)

3階展示スペース

●箕田源二郎原画展

絵本『ぞうれっしゃが

やってきた』

(岩崎書店刊)



- 地下鉄一社駅下車北へ徒歩約13分
- 市バス 地下鉄上社駅より右回り循環バスにて7分、地アミ下車徒歩3分

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日(祝日の場合も開館)
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 閲覧料 大人 300円 小中高生 100円
- 閲覧料を頂くのは、2階の展示室です。1階にも「現代の戦争と平和」というテーマでの展示と戦争に関する図書ライブラリーがありますが、無料でご自由に閲覧できます。
- 団体やグループ、学校などの見学会で開館時外に来館ご希望の方は、ご相談下さい。
- 3階の企画室の使用料については、事務局にお問い合わせ下さい。
- 駐車場がありませんので、必ず公共交通機関でおいで下さい。

●編集後記●

これまでの運動のなかで、私たちは幾つかの先進館を見学してきた。そのなかの一つに高知の「平和資料館・草の家」がある。ここのリーダーの一人が、「こうした運動は、真面目にやらないと続きません。愉しくやらないと、広がりません」と仰有った。過日、開館式の案内状が私にも届いた。その出席の諾否を問う葉書に、「メッセージがいただければ幸いです」とあった。そこで、高知のリーダーの言葉を思い出し、四字熟語で次のように綴った。

ねがいかなって やかたはできた ころあわせて へいわをまもる
「大願成就 金城湯池 異体同心 天下泰平」(S)